



俳諧御傘 二

特別
~ 5
6041
2



紅印

56-4075

能得此筆



子

麤 一のちりり乃世る也又
ふこ激こ麤こ世こ麤こ、旁こること
後こよこ流こくこ今こ一こまこへこ

子鳥 今こここ水こもこここ鳥こをこじ
とこ流こくこもこ回こあこ

子又娘 子の字ふみ句とらり
友ふ二句とらりて痛くしりり
とこ無ことこ物こよこわこりこ毛こハこ交こ道こ
乃こ大こ事こ神こ秘こ乃こ洞こあこくこあこやこ

志くぬあしぬるもの難し
 今ハ付白くしり極之又とハ
 じぬてハいふらぬとちいぬ
 等乃難ことりんぬらくとい
 二句まき不乃ぬととりんぬ
 いらよ極まらばまあ句若
 あーにぬて人しちいもい
 ぬとまき小付白よ世乃うき
 ハ知してぬととあし極句し
 形あひ中まあくふゆ人よ付ぬ
 事にもれり彩式より大切
 とらふ朝し極らうとらふ義
 しまあしぬてくくもいして
 いらぬとぬ又さのれとて
 實大を極まらうとらふし

ぬん流らんあめの極り

連小一産二句能よらねと人
 てと句もまきしと極りら
 福くうもめらまらうま連よ
 極まらう人し能よらと句まき
 ぬ人極あらしとてい
 人極ことと無き物り
 わりも彩式乃んまらうとこ
 家子代名人乃極しぬも
 ありしも皆人極し又字も
 うらう守能うしと極らうと
 といとも人倫と彩式より飛
 をあらし月をまらうとまら
 人極よあらしとらうあまよ
 くゆあらしと極らうとわらう

人偏めつらん人偏はあらん
ひふ神と新武りもこの新
武を渡らんも新武乃ん
あつぬらんよあひの神
あさあり偏りあつぬらん
いふあつぬらんあつぬらん
いふあつぬらんあつぬらん
いふあつぬらんあつぬらん
いふあつぬらんあつぬらん

あつぬらん

あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん

あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん

あつぬらん

あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん
あつぬらんあつぬらん

如き花

只一能辨りも
女らうとてとて

おつひとわらわ久今一句
多へい法蓮も女乃字よ
いねを可憐ん又男と今
とつふ草むありあ終も女
良花二句乃周るるへ

鬼

新式お二燈一句の如よ
おとらとつを百韻ま
よま成あ句よ二句乃物
連あうふむと成極
能辨いもよ是と兼や句
物を宗とすまと百韻よ
鬼とも鬼神とも一りあり
てねを久鬼ゆり鬼あさ
とらと今一もへ一鬼ら

女

生歌うもあは鬼神と
いひと神祇もあは久又
画をうむむに鬼乃字よ
あは久ありも鬼乃字よ
原の家うらありも終ん
小見とまう人備のあへ
うし寸鬼屋うひも二乃用
といはまもねをうへさし
をうあといひも只て
子句よ一句の物されと能
とらも二のまへう久女房
女様まて終よいひもも
うし寸し女め乃らうあと同
字の神祇めいひひく女よ
面を場へ一女はむ八人備

なまはくはく

作乃一字とも
くゆよひのさ

ふいさうしん原書乃字あぢ
二句始く物乃孫よきうら
次終くうあまうりも同あ

高野川名無流あはれ流

乃句に

殺ひぶきうら
孫乃字よ六付句始

乃句に 殺ひぶきうら
孫乃字よ六付句始
乃句に 殺ひぶきうら
孫乃字よ六付句始
乃句に 殺ひぶきうら
孫乃字よ六付句始

小田入と

まゝに始あはれ
まゝに始あはれ

て後ふあをいりし田を
始の難し物乃字よ二句
し田をいりし物乃字よ二句
あといりし物乃字よ二句
事なるれし物乃字よ二句

なまはく

まふをいりし物
なまはく

小田入

林紙し名く大書
今の何なる事し

大書教しりあまもは時り
月しん

小舟

連よる小舟
あまもは時り

よりり船よる小舟二のり
あまもは時り小舟
あまもは時り小舟

るゝにぬも極るゝゝ次

祝の山

新式云下竹山歌の
神代祝の嶺

林赤山歌極物よえい
月ひらと極るゝゝ
今も極るゝゝ
うへ末地ととも山歌よあゝ
寸とらぬゝあゝ

わと祝

難し祝を法
ていぬしひ

不わ傳乃人曾て不わ知
云物よよ忘乃字よ二百
るゝゝ
草言よゝうけし二百と
ぬし

和別とこれし
句極と
るゝゝ
獨あゝ
あゝの
又
極も
るゝゝ
らぬ
とら
こゝ

美矣乃若夫の口傳と傳
ある連し勢よまゝの二言三言
とある事の中へ名別し物よ
まゝの二言三言の中へ花さう九雜
し道中も花を結縁し
雜し二輪は夫のつとて
二言三言の中へ二言三言
寸毫もあつては物をさう
まゝの中へ今一白を傳ら
それをも花を結縁する事
まゝの中へ三言辭解九連
一白乃稱の能く二言三言
あつては物さうの
事の中へ一白乃物乃事
ハ物を結縁し花乃嘆息く
と感は事の中へ或ハ事の中へ

~~~~~

馬字

連小又白去能一の  
二言三言とそれと  
ていある人さう  
~~~~~

あ葉

大切なる可のなまじけ新
或乃又事の中へこれと結
しぬ白の言らぬことありし
色の本乃あ葉し事の中へ
いまふらりし

家君

あつては人備よ
あつては事の中へ
あつては事の中へ

りらあめ まき

りらめ まきしつゆいあき

りらあま まき

りらあま むらあ まきしつゆいあき
い難し

りらあま あま まきしつゆいあき
あまのりらあまのま
しあまのまあま

りらあま あま まきしつゆいあき
あまのりらあまのま
あまのりらあまのま
あまのりらあまのま
あまのりらあまのま

りらあま あま まきしつゆいあき
あまのりらあまのま
あまのりらあまのま

りらあま まき

りらあま あま まきしつゆいあき
あまのりらあまのま
あまのりらあまのま

りらあま あま まきしつゆいあき
あまのりらあまのま
あまのりらあまのま

りらあま あま まきしつゆいあき
あまのりらあまのま
あまのりらあまのま

りらあま あま まきしつゆいあき
あまのりらあまのま
あまのりらあまのま

りらあま あま まきしつゆいあき
あまのりらあまのま
あまのりらあまのま

りらあま あま まきしつゆいあき
あまのりらあまのま
あまのりらあまのま

りらあま あま まきしつゆいあき
あまのりらあまのま
あまのりらあまのま

た乃さの難しきことと
めんら付くもく家し
物守磨たこととめんし
きしとめんもめんとま
たし物とまし同と綿し
とめん同字とるに付くも
く物し物付とるめり
誓乃物お似し物し
よこの難しきことと
又系おし物し物し
めんと名はし物し
各々の乃物とるり物し
日小まし物し物し
ふし物し物し物し

加

乃字

約よとゆつり
数句の乃物
いふことと今一あり懐
とんことと新式よと
いふも連物乃物し
まるまらし物乃文字
句を成る

物

連物よ一物とるれ
物よ二物とるれ
物乃物よの物とるれ
連物と物物よの物
るり物物よの物
物物物よの物
下物と物物とる
し物一物とる物
物物とる物

秋よのねをくくふ基無理
し能備よの形武乃あつく
曇目の神燈者乃神とる
ともくあまはあまのあま
天の山神とてはくその神
名をくあ神能くあはくあ書
あまのあまのあまのあま
の得しはくはくあまのあま
を代二句物とてあまのあま
武よと句乃あまのあまのあま
くあまのあまのあまのあま
とく

神よ 神系とくし面をあま
し能よのあまのあま

神よ なる神如連なるあま
能よ雷電なるあま

い付くもくあまのあま

神よ かくあまのあまのあま
とくはく神能くあまのあま

くあまのあまのあまのあま
よ神能くあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま
神よのあまのあまのあま

深山地遊するあまのあま
あまのあまのあまのあま

能よのあまのあまのあま
とくはく神能くあまのあま

あまのあまのあまのあま
よの神能くあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま
能よのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま
能よのあまのあまのあま

とあまうし能治しぬるを
るしは穠くわ紅葉くわは
歎をくけりぬあし寸も
花の葉をくぬぬる事なれ
し得回乃あしと積くもむ
見紅葉見ん事くせく
色歎をく家屋く小伝を
ぬり句をくし面を始
さるくハ又字もんもくし
まうし二句為人ふもくわ
月梨くもあはは事なたる年
小ハ不審ある人くし能
産乃家道乃二句ああり
よらうしとくもれしと
くもくしとく人くし
丸くあはは乃とく下
美也よ去付家知く又うり
夜うりぬちまうり物と
るしとわあ乃んるれと
小一旬くしとくもく
よちりくもあやまうり
あはまうりぬし拍中
常平の快衣束よハあし寸
衣のくり場或ハは積おち
くるまそあをけくハは
くあははのなれしとく
乃んあまうし物乃ん
うんあまうし積乃ん
うり物くりなすく
くくあはは始く
あははの事理く
物乃んあまうし

とあまうし能治しぬるを
るしは穠くわ紅葉くわは
歎をくけりぬあし寸も
花の葉をくぬぬる事なれ
し得回乃あしと積くもむ
見紅葉見ん事くせく
色歎をく家屋く小伝を
ぬり句をくし面を始
さるくハ又字もんもくし
まうし二句為人ふもくわ
月梨くもあはは事なたる年
小ハ不審ある人くし能
産乃家道乃二句ああり
よらうしとくもれしと
くもくしとく人くし
丸くあはは乃とく下
美也よ去付家知く又うり
夜うりぬちまうり物と
るしとわあ乃んるれと
小一旬くしとくもく
よちりくもあやまうり
あはまうりぬし拍中
常平の快衣束よハあし寸
衣のくり場或ハは積おち
くるまそあをけくハは
くあははのなれしとく
乃んあまうし物乃ん
うんあまうし積乃ん
うり物くりなすく
くくあはは始く
あははの事理く
物乃んあまうし

美山本林乃田るわく付るりの
くはくしきしね遠ざりき
云云物々し副ましくまじり
あましき云理し声名ね遠
したるさもこわるの付
屋うおの文よまうくも純
こりるやあくも白紙のま
わし言れしまらふやうらり
くらも紙葉さう付しこりる
さんよるふの料りゆるんあ
文よまうらり給ふるうし寸
鐘 只一入ね一人あいつるん
一形式乃沙信とびつり
瀬清よる鐘一入おゆん鐘を
おろし事さられしは内おら
りよ一見乃鐘一見氏の人

乃池つとそめく付にけりる
見乃鐘とらあし今鐘若
鐘を渡時打さし寸磬ねり
しあまし人あぬ乃々給こし
磬をさうつとらふあくも
もらや見の鐘まうら寸
十二個子乃中一よ見鐘こ
まももひきさしん云細子の
時し鐘は乃内よあくはく
つくも細子の見鐘とあ
ぬれりものうのあるへく
と懸乃鐘一あまし連あま
鐘の美名しつるものく
しらの發たまへし水あ
生教よあくはくあし
鐘と同一はきしもおら

く孫同家行ぐ孫同家願う
孫同家大工のく同家齒よ
けりう孫同家おくらりけり
てもんけりけりけりけり
く船大若うるるやけりけり
うるもけりけりけりけり
し六月乃吳名小林鍾とあ
ふをいけりけりけりけり
鍾乃字をきけりけりけり
乃う孫とまけりけりけり
るる大なる孫若くそ物きり
人若りけりけり

霞小

あかりの二句きりけり

雲乃衣

衣敷のあけりけり
乃字よけりけり

雲の網

あけりけりけり
乃字よけりけり

雲乃心

二句きり

雲乃舌

山城乃名けり
不吉のけりけり
むけりけりけりけり

雲の海

きりけりけり

雲乃洞

仙境なるけり
乃字けりけり
さりけりけりけり

白鹿小

霧を結くも
まじ

新小陰

打越るも陰乃
くまふも心こま
くられ句神小くく二句を
歌乃くまよふまきくま

法のうけとらふ

山けり
けり亦乃

まきくまぬ陰を歌乃け
とらふも月日のけり人々
等の物く歌くまよふま
ハ歌と歌とまきくまよふま
まきく陰のうけも歌乃け
まきく二句まきくまよふ
まきく入る付まきくま
もまきのまきく人乃るま

京法京時亦乃京小ハ
とまきくも神付くも
あきくも陰のうけは
拍拍二句まきくま亦乃
拍よふまきくま

くこいんよ

くま二句まき
飛よも二句ま

記念と書くもくま
續ゆへもあまハ一切名
く

くこいんよ

くまのまきくま

くこいんよ

くまのまきくま

きも回あ

くしいふも用あつてよ

どくくくくくくくくくくくく

回あ

楓 秋にきくしてても回あ
紅葉ふねを始とあは

池ふの面を始とあは

河も乃ぬ 多思と澄物
ふ二句ぬふ

七句まじ

無猶 多思と無乃字ま
二句皆ん乃字あは

あまり

葛城 山とふまは神ととも
山敷らり

ま日祭 二月上申日
十一月あはれ左

初の祭を正とともはあま

ま

ま日ふ いく日あまのうり
三句まじま字日

乃字あまのうり

神祭 多し大の神のちあ
月よ多まれとく

あまの神の名を始とあは

祭のまを始とあは

ままにあは

ま日祭 いく日あまのうり

楓初よあまのうり

ままの理あまのうり

付くはらばしうりうりこ
しうりうりぬらうりぬらぬ
ふわうり

袷のなはれ

准繪但
秋乃季

まのふりし月之袷ふりし可
わかしうり新式法よりなむら
るふりしうりものよふりしと
あしうりし物乃らうりし
と生製よりなむらうりし
し袷よりくちのふりし物
とふりしうりしとともぬ
ふりしとさふりしと袷
乃らうりしふりしと
連うりしとふりしと
ふりしとふりしと

く袷のふりしにふりしと
三白乃物と知るし袷ハ
いふはまも新めし

うりしうりし

北巻
字但

しとむのふりしとふりしと
ふりしとふりしと
新式めし物とふりしと
ふりしとふりしと
ふりしとふりしと
ふりしとふりしと
ふりしとふりしと
ふりしとふりしと
ふりしとふりしと
ふりしとふりしと

痛瘦痛ふく紙も傷を
とくも難く事同りま
執痛志清傷をくとも
醫家よりやわらり乃
みよこのうさほらそのま
むささゆまよ三句ま
客のまよふ面紙かへ
死地唯く

願
二句ま

風とく 二句ま

葛城
とつりま山歌

よつりま
二句ま

のりあつるま
まよふま
まよふま

名地井
くまあし水ま

海海
まよふま

小舟釣海ま
まよふま

貝
まよふま

月のまよふ貝ま
まよふま

くくくくくくく

くくくく

くくくくく

くくく

くくくくくく

くくく

くくくく物おの

くくくくくく

くくくくくく

くくくくくく

くくくくくく

くくくくくく

くくくくくく

くく

印

くくくくくく

くくくくくく

くく

くくくくの

くくくくくく

くくくくくく

くく

くくく

くく

くくくくくく

くくくくくく

くくくくくく

くくくくくく

字ハ二句まで

うみうみはけく久

祿も継ぐは定まらぬ

うね

後句の和りし福も
うみうみはけく久

今一句と併し句のやめ
うみうみはけく久

連能きなり

難よ

うみうみはけく久

うみうみはけく久
句まじりも亦新式なり
協合しうみうみはけく久
定まらぬをうみうみはけく久
へし連能きなり

このうみうみはけく久
とて古人なりか
よ何句乃物と難し
新式よとてけく久
うみうみはけく久
うみうみはけく久

うね

連ふ二句の
船よハ二句まで

悲歎悲涙のうみうみはけく久

忠田流るるハけく久

うみうみはけく久

うみうみはけく久

句并始り終り
うみうみはけく久
うみうみはけく久
うみうみはけく久

かきし とうひのう二句
まことそれらあふぬ

うやうや乃教し

かみな字 じしうく教くあふぬ
うやうや乃教し

もきしうそひるものまじ

乃親わを久句のあけを
久く二はくまき

うらま とうふ親人編者
とあふ乃るあふぬ

しるあふ乃るあふぬ

しとあふ乃るあふぬ

あふ乃るあふぬ

あふ乃るあふぬ

あふ乃るあふぬ

あふ乃るあふぬ

あふ乃るあふぬ

あふ乃るあふぬ

あふ乃るあふぬ

あふ乃るあふぬ

あふ乃るあふぬ

多入といふ候一々の鳴り
りるさの山乃を在月のつら
乃山たよるやを乃とさ
たよあるの留る候よあ
もやあるのい出らあ
さく名入るの山乃い
乃名あるのいあ
事よるの山乃い
しあるの山乃い
な山乃いとあ
の山乃よあ
ああああああああああ
るの山乃い
去場乃月よ不らあ
今更よ改めあるの山乃い
あ

賀茂祭

四月申酉日
より

かみのあし 回

風りある

甲斐の約子 八月十五日
種取の約子

上野の約子 八月八日又十五

川乃紅葉

秋あつて

よるあつてあつてあつて
りりりりりりりりりり
けのあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

人冬ノ故ノ只白神ノ
邊ノ

ノ邊ノ故ノ只白神ノ

ノ邊ノ故ノ只白神ノ

ノ邊ノ故ノ只白神ノ



年
年
年

